

三条市立大 産学連携実習

実学重視を特徴とした三条市立大（上須頃）のカリキュラムの「目玉」となっている3年生の産学連携実習が、三

52社受け入れ

条市や新潟市などの52の企業で行われている。約4カ月の長期にわたり一つの企業で学ぶ実習で、製造技術だけではなく、消費者のニーズに合った商品開発や、価格設定、情報発信なども実践的に身につけることができる。一方で学生の柔軟な発想が、企業側にも刺激となっている。

「ネットに投稿された消費者の意見も調査し、分析を公表した。社員からは「カラー表示は『白』でもそれぞれ違いがある。実際の色で比べるといい」「同じ材質でもグレイドが異なるとコストや耐荷重が変わってくる」などと解説を受けていた。

齊藤さんは「商品が開発されていく過程でどのようなことが考えられているのか学ぶことができる」、深澤さんは「企画に興味があった。知識だけでなく、考

え方も含め実習できていて「手応えを話していた。学生の長期受け入れを企業側も前向きに受け止める。コマリの担当者は「大企業で専門的な学びを習得している学生は、柔軟な視点で市場の課題を考えており、担当者も良い刺激をもたらしている」とする。学生の将来について「世の中の暮らしの豊かさに貢献し、社会で活躍できる人材に成長してほしい」と期待した。

2年生は、それぞれ3社で2週間ずつ学ぶ「産学連携実習Ⅰ」を終え、今月中旬、報告会を大学で開いた。学生87人が、各社で企画、開発、生産のプロセスを体験。報告会には、受け入れ企業108社の関係者を招き、学んだ内容や、自分の課題などを発表した。

小林設計、外山刃物、ワイヤード（いずれも三条市）で実習した玉置蒼生さん（20）は「技術だけでなく、作業を円滑にするためコミュニケーションの大切さなども学ぶことができた」と話した。

知識だけじゃない手応え



コマリで実習を受けている三条市立大3年の齊藤有美さん（右から2人目）と深澤奈央さん（同3人目）
|| 新潟市南区清水

企業側も柔軟発想に刺激

工学部のみがある市立大は2021年に開学し、3年生の長期実習は昨年に続き2年目。71人が、9月から来年1月にかけて、「産学連携実習Ⅱ」として学んでいる。受け入れているのは、ものづくりに関わるさまざまな分野の企業で、三条市、燕市、新潟市、長岡市などにある。実習先は学生の希望などに基づいて大学が調整。学生たちは週4日ペースで通っている。

三条市が創業地で、製品の生産から販売まで一貫して取り組んでいるホームセンターのコメリでは、齊藤有美さん（20）、深澤奈央さん（21）の2人が実習している。

11月上旬には新潟市南区清水の本社で、同社をはじめ全国ホームセンターや家具販売店のカラーボックスについて、価格や耐荷重、色の種類、組み立てやすさなどの特性を比較。インタ

「コマリで実習を受けている三条市立大3年の齊藤有美さん（右から2人目）と深澤奈央さん（同3人目）」